



合志市から
世界へ

ビーチサッカー選手

きぶね

ゆうき

木船 祐樹さん

——子どもの時の合志市の思い出は？

家の近くの壁に向かってボールを蹴るとか、外で遊ぶことが多かったです。ひまわり公園に行って、友人とサッカーだけではなく野球もやっていました。小学生の頃、ユーパレス弁天が出来たことも覚えています。ルーテル学院中学・高校のサッカー部時代は、練習場が合志市にあるので、皆が学校に帰り着く頃には、家でご飯を食べてお風呂に入っている感じでした。

——大学を卒業し合志市に戻ってきたのは？

大学卒業後に教員になるか、サッカー選手として現役を続けるか、悩んでいた時、熊本のビーチサッカーチームに誘われました。その頃、熊本地震が起きたのです。当時、私が熊本のために出来ることは少なく、熊本でビーチサッカーをやることで1人でも多くの人が笑顔になったり、楽しく思ってもらえたりと、何か出来るのではないかと考え、今のチームに入ることを決めました。「コレカラダ」で仕事をしながら競技を続ける大変さがありますが、職場の協力に感謝していて、日本代表に選ばれるなど、結果を出すことで地元への恩返しになるのかなと、真剣に向き合っています。

——木船さんにとって合志市とは？

「居心地が良い場所」ですね。家の周辺には竹林があるなど、程良い田舎というか、あまり周りを気にしなくて良い環境ですので、庭で日光浴をしたり、バーベキューをしたりと楽しんでいます。美味しいお店も結構あるので、「合志市で完結出来る」という面も好きなところですよ。

——これからの合志市に望むことは？

子どもがいる同級生たちが、「医療費など子育て世帯への支援が充実している」と、よく話しています。結婚をきっかけに戻ってきた友人も、「合志市に帰ってきて良かった」と話しています。一方、新たな住宅地が出来ている地域と、それ以外の地域との差を感じることもあります。豊かな自然環境も大切にする半面、生活の利便性が高まることも大事ですので、「満遍なく栄えていく合志市」であって欲しいと願っています。

